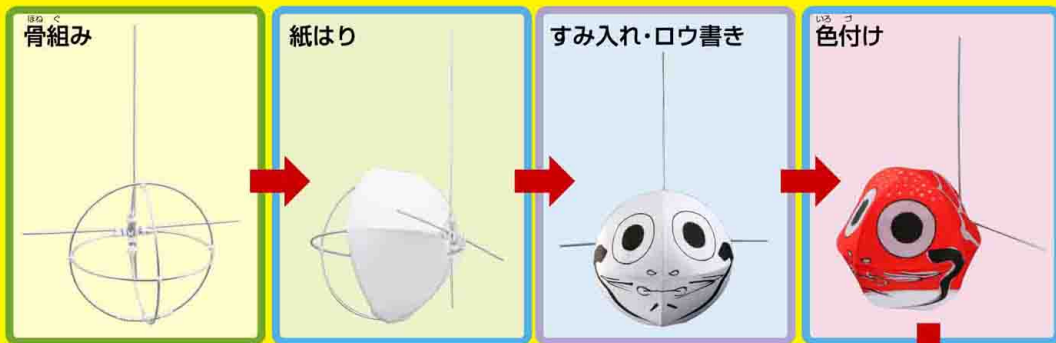


# 金魚ねぶたをつくろう



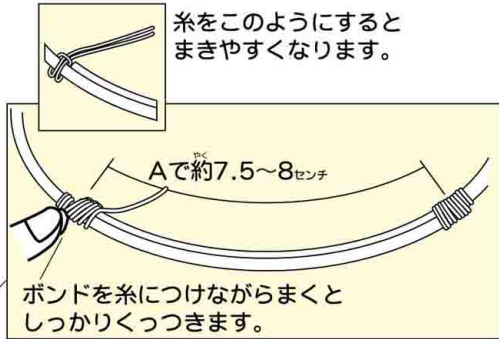
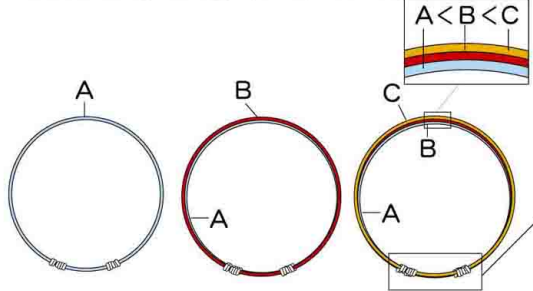
**金魚ねぶたの由来**  
 ねぶた祭では主に小さな子供たちの持ち歩き用のねぶたとして使われています。  
 金魚ねぶたの形は江戸時代から津軽地方で飼育されていた金魚「津軽錦」（つがるにしき）がモデルになったといわれています。まん丸いどつたいと立派な尾ひれ、そして背ひれがないのが特徴です。

**完成**  
 たのしみ  
 せいの  
 かん

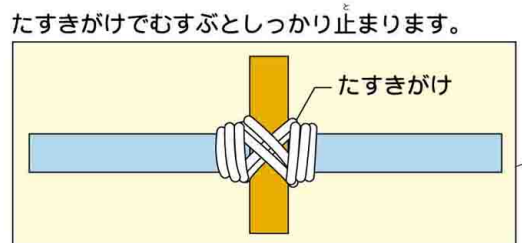
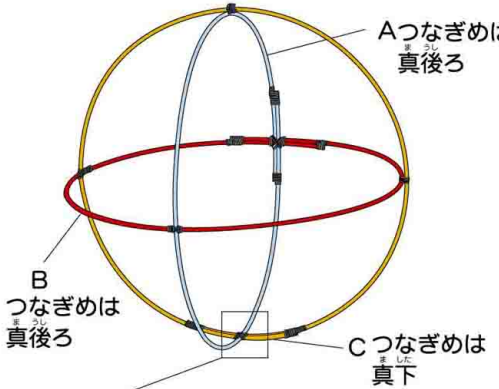
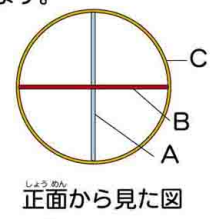
青森ねぶた祭実行委員会  
 〒030-0823 青森市橋本二丁目2番17号 青森県商工会館4階  
 TEL 017-723-7211 FAX 017-723-7215

**骨組みをつくろう** 金魚ねぶたをきれいに作るには骨組みがだいじです。がんばって作りましょう。

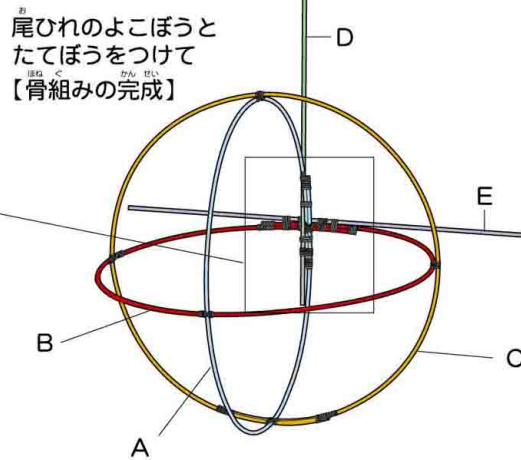
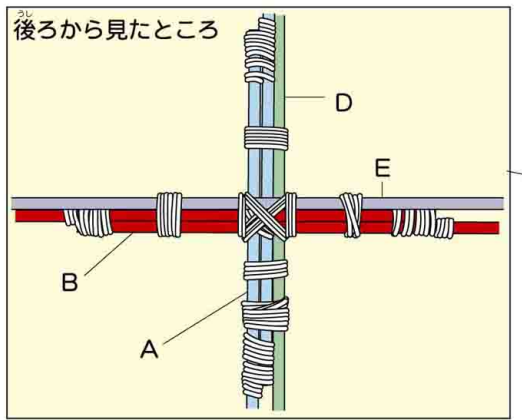
**1** A、B、Cの針金で3つのわを作ります。  
 BはAと下を合わせて針金1本分、  
 CはBより針金1本分大きく作ります。



**2** 3つのわで球をつくります。  
 AとBをくっつけてさいごにCをつけます。



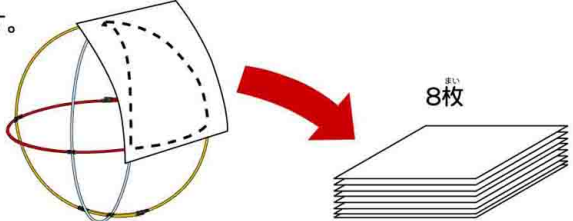
**3** DとEで尾ひれを作ります。



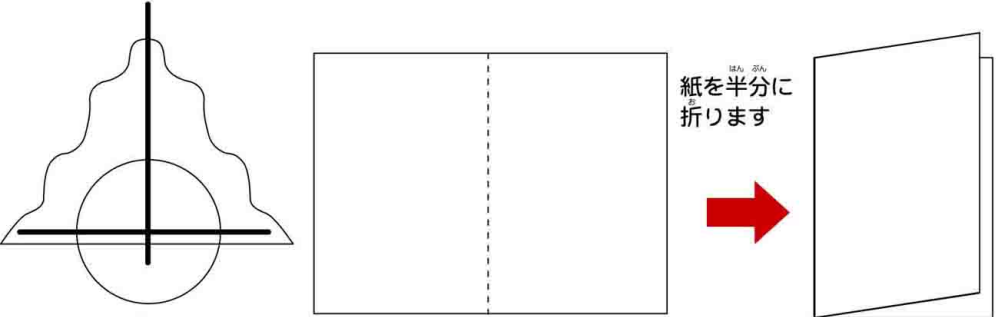
尾ひれのよこぼうとたてぼうをつけて【骨組みの完成】

**4 骨組みにはる紙を用意します。**

胴体の部分の紙は枠よりも少し大きいものを8枚



尾ひれ、むなびれ、はらびれの作り方（尾ひれは針金より大きめに作ります。）



紙を半分に折ります

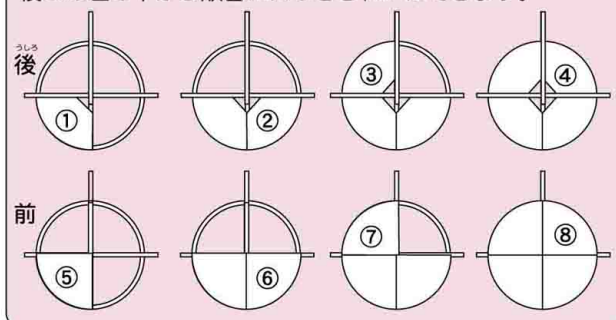
えんぴつで尾ひれ、むなびれ、はらびれをうすく書いて切ります。



**紙をはろう**

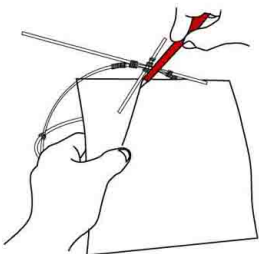
わくにボンドをぬって和紙をはってください。ボンドがかわいたらはみ出たところをカッターで切ってください。

後ろの左の下から順番にはるときれいにできます。



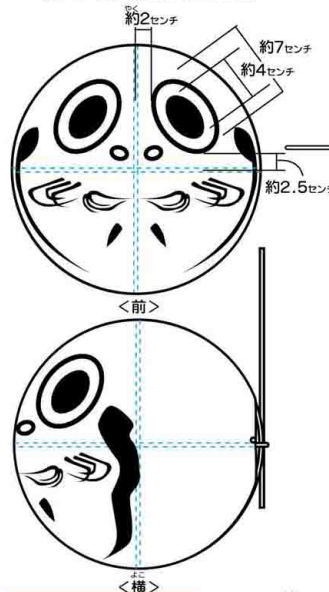
できるだけ、はりのこしのないようにはると、しあがりきれいです。

後ろの部分を開けるのは、絵の具を塗る時に骨組みをつかんで金魚ねぶたをよごさないためです。



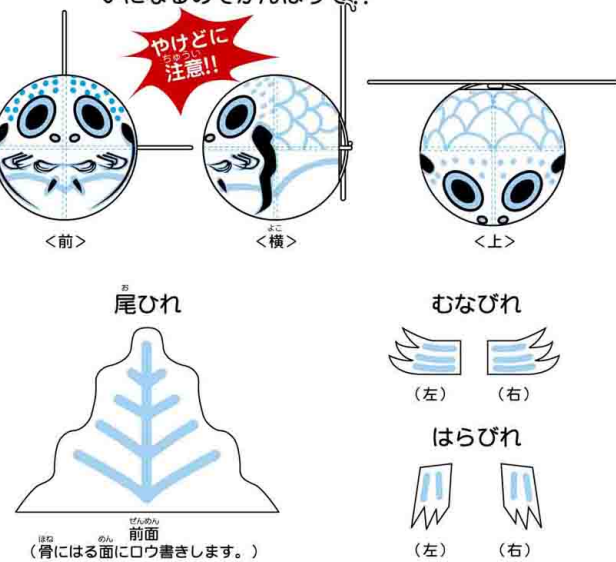
**すみ入れをしよう**

下の図を参考にすみ入れをします。目は家にある丸いものをさがしてあてて書きましょう。



**ロウ書きをしよう**

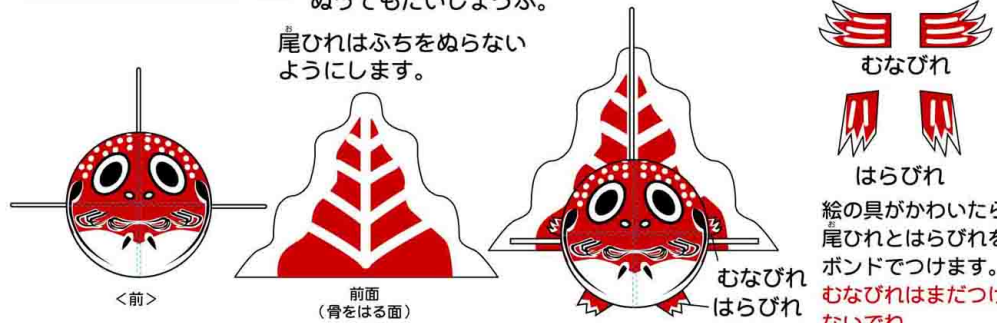
下の図の水色で描いた模様を参考にロウ書きしてください。すばやく書いたほうが、できあがりきれいになるのでがんばって!!



**色を付けよう**

赤い色はロウ書きした上からぬってもだいじょうぶ。

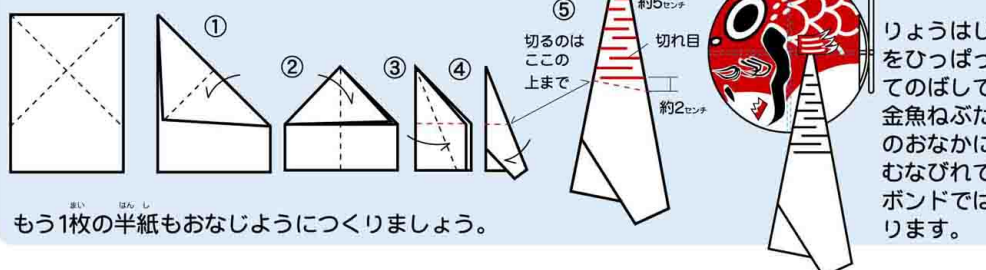
尾ひれはふちをぬらないようにします。



**9 ふさかざりをつくろう**

半紙を下図のようになっています。

はさみで切れ目をいれます。(10~11ヶ所くらい)



もう1枚の半紙もおなじようにつくみましょう。

りょうはじをひっぱってのぼして金魚ねぶたのおなかにむなびれでボンドではります。